

未来を救う「災害の歴史」を探そう！ 自然災害伝承碑調査学習マニュアル

なぜ、自然災害伝承碑を探すのか？

自然災害伝承碑とは、過去に起きた自然災害の規模や被害の状況、教訓を後世に伝えるために先人たちが残した石碑やモニュメントです。

津波や洪水、土砂災害は繰り返し起きることが知られており、過去の教訓から学ぶことが重要です。

しかし、身近に自然災害伝承碑があってもその内容が知られておらず、災害時に逃げ遅れてしまう悲しい事例が過去に起きています。国土地理院ではこれらの自然災害伝承碑を市区町村長からの掲載申請に基づき地図に登録し公開していますが、全国にはまだ「未登録の自然災害伝承碑」が数多くあると言われています。

このマニュアルは、生徒や先生方が授業や課外活動で未登録の自然災害伝承碑候補を探し出し、校内で発表を行ったり、当該市区町村への情報提供を行っていただくことを最終的な目標としています。

本マニュアルの使い方

このマニュアルは、「通常メニュー」と「オプションメニュー」から構成されています。

	通常メニュー	通常メニュー+オプション
調査期間	1か月程度	半年～1年間程度
調査手法	資料調査(web調査)	資料調査(web調査)、現地調査、ヒアリング等から組み合わせる
調査範囲	学校	学校や自宅周辺～ 所在する都道府県程度

学校の授業時間や活動形態に合わせて「通常メニュー」のみの実施、あるいは「オプションメニュー」を追加してより深い探究活動へと発展させることが可能です。

<スケジュール例>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通常	どこかで1か月間程度											
通常+オプション	資料調査	準備	現地調査およびヒアリング					調査結果の整理	資料作成	発表		

目次

【通常メニュー】

1. 自然災害伝承碑について知る..... 1
2. 未登録の自然災害伝承碑を探す..... 2
3. 調査結果を発表する..... 3

【オプションメニュー】

4. 現地調査..... 4
5. ヒアリング..... 5
6. 自然災害伝承碑と地形の関係..... 6

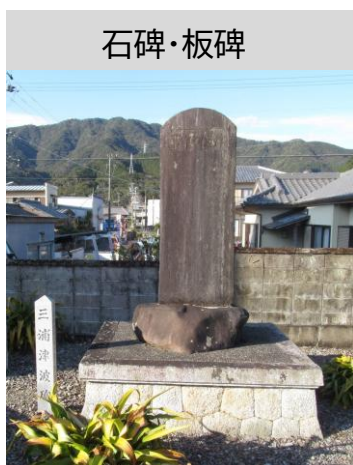
【巻末資料】

1. 参考図書やwebサイト(地理院地図の使い方)
2. 基礎調査結果整理シート(記入例付)
3. 調査過程で困ったときの事例を交えた対応策
4. 現地調査計画書(記入例付)
5. アポイントメントの取り方とポイント
6. 国土地理院へ登録する際に必要な情報を整理するシート(記入例付)

1. 自然災害伝承碑について知る

1. 1 自然災害伝承碑の形状

自然災害伝承碑の形状は大きく分けて下記の2つのタイプがあります。



津波之碑(三浦津波碑)
(三重県紀北町)



伊勢湾台風痕跡水位の碑
(奈良県吉野町)

その他として、下記のような事例も自然災害伝承碑として登録されています。



突出マンホール
(北海道釧路町)



東南海地震烈震の地
(長野県諏訪市)



水位標
(新潟県新潟市)



色川の土石流犠牲者供養石
(和歌山県那智勝浦町)

1. 2 自然災害伝承碑の条件

自然災害伝承碑として登録されるために下記の条件を満たす必要があります。

恒久的な石碑や
モニュメント

説明板や公的資料で
内容補足可能なもの

復旧記念碑・慰霊碑
(災害事由が明確なもの)

※ただし、条件を満たしていても土地や碑・モニュメント等の管理者の事情等により市区町村から国土地理院への掲載申請が出来ない場合があります。

下記の場合は対象外となります。

- ・ 恒久性に乏しい木製のモニュメント(管理者による適切な維持管理がされている場合を除く)
- ・ 木製の標柱
- ・ 独立した構造物でなく、建築物に附属するもの
- ・ 伝承要素のない竣工記念碑
- ・ 干ばつに関する石碑
- ・ 個人の顕彰のみを目的とした碑

2. 未登録の自然災害伝承碑を探す

2. 1 基礎調査の実施

自然災害伝承碑を調査するために下記の流れで基礎調査を行います。

情報の収集

市区町村史、自然災害に関する史料・文献・新聞記事、自治体のwebサイトなどを活用して、地域で過去に起こった災害(洪水、地震、津波、土砂災害など)と、それにまつわる伝承碑の情報を探します。



三重県玉城町史



三重県玉城町
広報誌

未登録の 確認

収集した情報をもとに、見つけた伝承碑情報が、国土地理院の「地理院地図」にすでに「自然災害伝承碑」として登録・公開されていないかを確認します。

動画でも使い方が
確認できます



登録情報の 整理

伝承碑に関する「災害名」「発生年月日」「被害の内容や規模」「教訓」をノートやワークシートにまとめます。

上記の調査にオプションメニューを追加することもできます。→4～6ページ

調査の際に参考になる資料やwebサイトを巻末に掲載しています。→巻末資料1

調査結果を整理するシートを巻末に掲載しています。→巻末資料2

調査過程で困ったときの事例を交えた対応策を巻末に掲載しています。→巻末資料3

3. 調査結果を発表する

3. 1 発表資料の作成

紙面やパワーポイントなどで用途にあわせて発表資料を作成します。

スライドを使った プレゼンテーション

最も一般的に用いられます。

論文・レポート

ワードなどを用いて
A4用紙に文章で論
理的にまとめます。

ポスター・新聞・ パンフレット

1枚の大きな紙面に
視覚的にまとめ、ポ
スターセッション等
の形式で発表します。

基本的な構成

- ① タイトル
- ② 背景と目的
- ③ 調査方法
- ④ 結果
- ⑤ 考察
- ⑥ 今後の課題
- ⑦ 謝辞・参考文献

<わかりやすい資料を作るポイント>

- 見やすいフォントと色
- 図・表・グラフの活用
- 引用元の明記

3. 2 発表

調査結果を踏まえた考察や今後の課題を授業や部活動で発表しましょう。

発表資料を作成する過程で、自分の中で知識が深まるほか、発表を聞いてもらい、フィードバックをもらうことで、新たな発見や他の人の調査結果と通ずる内容が見つかったりします。そうしたやり取りから、未登録の自然災害伝承碑の発見につながる次の探究へステップアップしていきます。

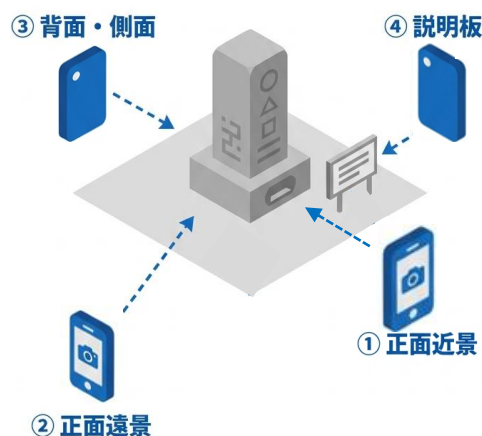
4. 現地調査

4. 1 調査項目

実際に伝承碑がある場所へ赴き、以下の項目を記録します。

- ・ 写真撮影

正面からの近景、周辺の状況がわかる遠景、碑文や説明板を撮影します。



<碑文や説明板の内容確認>

- ・ 災害の種類や範囲
 - ・ 被害の内容や規模
- といった情報が含まれているか確認します。

- ・ 位置情報の取得

「地理院地図」等を使用し、伝承碑の正確な緯度・経度(小数点以下6桁まで)を記録します。



こちらのQRコードから地理院地図にアクセスできます。

<現地調査をする際の注意>

伝承碑は公園など公共の土地にあるとは限りません。個人の敷地(民有地)にある場合は、無断で立ち入らず、必ず土地の所有者や管理者に立ち入りの承諾(許可)を得る必要があります。また、写真撮影や位置確認を行うことについても事前に了解を得てから調査を行ってください。(市区町村から国土地理院へ地図への掲載申請を行う際にも、所有者等の承諾が必要となります。)

現地調査に関する補足資料を巻末に掲載しています。→巻末資料4

5. ヒアリング

ヒアリングをすることで、自然災害伝承碑の伝える伝承・教訓内容について新たな知見が得られる場合もあります。より深い探究活動をする際は、以下の手順に従い有識者へのヒアリングを検討しましょう。

5. 1 事前準備

- ヒアリング相手の選定

地域の博物館・郷土資料館の学芸員や自治体の文化財担当者、地元のボランティアガイド、ジオパーク推進協議会などに地域の歴史や文化財に詳しい方へヒアリングを行います。

- ヒアリング内容を決める

確認したいことを考えておきます。

(例)災害の歴史的背景、地域社会との関わり、碑文解釈等

- ヒアリング方法を決める

対面なのかオンラインなのか相手の事情も考慮しつつ決定します。

- アポイントメントを取る

相手のスケジュールを確認しながら日時や場所を決めます。

5. 2 ヒアリング当日

- 準備品を確認する

筆記用具、録音機器、質問メモ、事前資料を準備しておきます。

- あいさつと自己紹介をする

学校名と氏名と目的を伝え、時間をいただいた相手にお礼を伝えましょう。

5. 3 ヒアリング後

- お礼を伝える

お礼は当日だけでなく、後日、メールや手紙などでも伝えます。

- まとめる

聞いたことは忘れないうちに、できるだけ早くまとめましょう。

- 成果物を送る

聞いたことをどのようにまとめて発表したのか、成果物を送ります。

ヒアリングに関する補足資料を巻末に掲載しています。 →巻末資料5

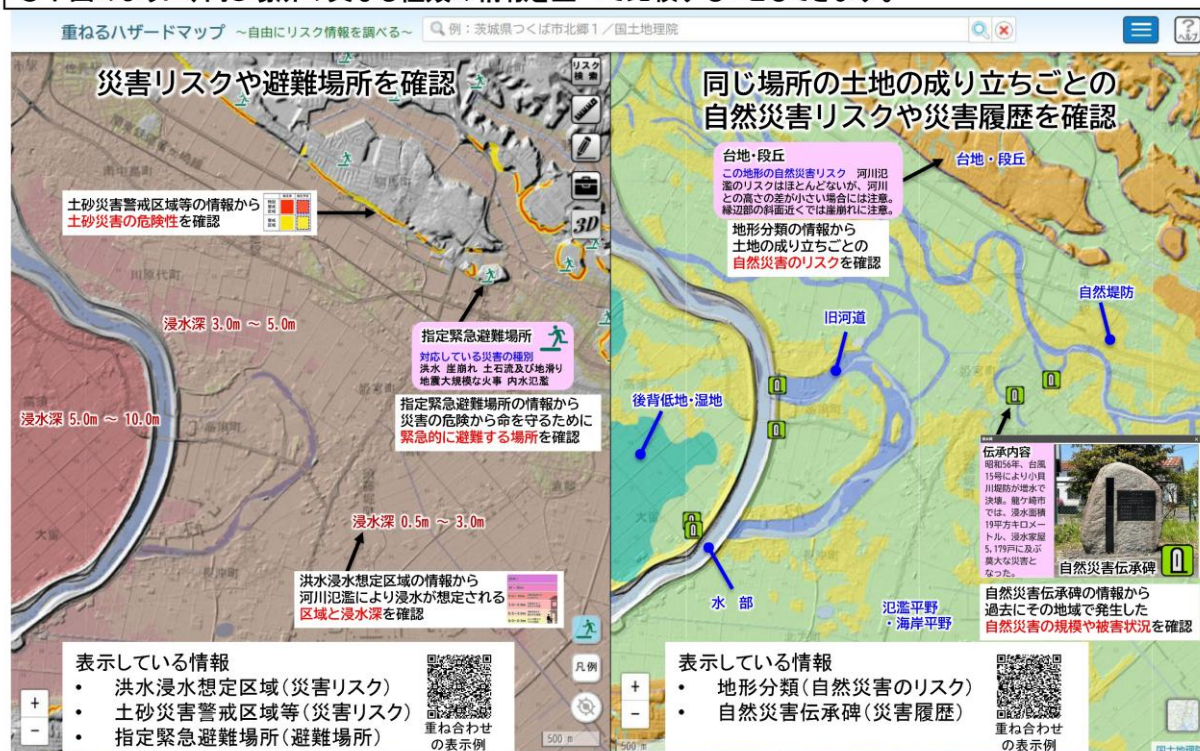
6. 自然災害伝承碑と地形の関係

6. 1 自然災害伝承碑から災害リスクを考えるポイント

自然災害伝承碑の情報は、過去の教訓を踏まえた的確な防災行動の助けになる情報の1つとして活用が期待されていますが、地域の災害リスクを考えるときは、自然災害伝承碑の情報だけではなく、ハザードマップや地形分類図等の災害リスクを表す他の情報とも合わせて考えることが重要です。

「重ねるハザードマップ」(<https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/maps/>)では、ハザードマップが示す災害リスクと自然災害伝承碑の位置関係を重ね合わせて表示し、確認することができます。

○身のまわりの災害リスクや避難場所等の様々な情報を一つの地図上に重ねて確認することができます。
○下図のように、同じ場所の異なる種類の情報を並べて比較することもできます。



国土地理院 報道発表資料「ハザードマップポータルサイトを活用して災害に備えよう」(資料2)
(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/bousaichiri61053.html>)

<注意点>

- ・ 自然災害伝承碑が公開されていない場合でも、過去に災害に見舞われたことがないとは限りません。
- ・ 自然災害伝承碑建立のきっかけとなった災害を引き起こした自然現象と同程度の自然現象が再び発生した場合であっても、再び同様の被害が発生するとは限りません。
- ・ 自然災害伝承碑の存在が所在地一帯の災害リスクをすべて表すものではありません。

参考資料

国土地理院 自然災害伝承碑に関するページ
(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)
国土地理院 自然災害伝承碑に係る調査業務実施の手引き 第7版
(<https://www.gsi.go.jp/common/000278405.pdf>)
三重県立松阪高等学校 郷土地理部
(https://www.mie-c.ed.jp/hmatus/matsusaka/pdf/club/culture/2026local_geography.pdf)

謝辞

本マニュアルの作成にあたり、ヒアリングに御協力いただきました三重県立松阪高等学校 郷土地理部 顧問の野田敏輝先生に心より感謝申し上げます。

作成年月 令和8年10月